



学校通信 令和6年9月13日 (臨時増刊号)

東広島市立中央中学校

<http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/chuou-chu/>



令和6年度 全国学力・学習状況調査等の結果について

3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」(4月)、1・2年生を対象にNRT標準学力調査(6月)を実施しました。次の表に示しているとおり、概ね全国平均を上回っており、基本的な学力が身に付いています。今回の結果を受け、各学年・各教科で課題と改善に向けての手立てをまとめました。

■学習調査の平均正答率(%)

学年	全国学力・学習状況調査		NRT 標準学力調査					
	3年生		2年生			1年生		
教科	国語	数学	国語	数学	理科	国語	数学	理科
中央中	62	56	61.0	57.5	63.4	63.5	60.2	62.5
東広島市	61	55						
広島県	58	52						
全国	58.1	52.5	57.4	54.4	61.4	61.3	58.7	62.6

■学力調査の分析及び今後の手立て

国語	【1年】「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「書くこと」の「送り仮名を含む漢字の書き」の領域において課題があった。今後、継続して漢字テストを実施し、「書くこと」の能力の向上を図る指導を行う。
	【2年】「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「書くこと」の「漢字の書き」の領域において課題があった。今後、継続して漢字テストを実施するとともに、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読み書きの習熟と応用を図る指導を行う。
	【3年】正答率はほとんどの領域で全国を上回っていたが、「読むこと」の観点において課題がみられた。この課題を克服するために、文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なるということを理解し、適切に要約することができるように指導していく。
数学	【1年】「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「データの活用」の「起こりえる場合」の領域において課題がみられた。不確実な現象についての実験や観察を行い、確率についての理解を深め、それを用いて考察し、表現できるような活動の場を多く設定する。
	【2年】「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべての領域において正答率が全国を上回っていた。「図形」の「平面図形」「空間図形」の領域において課題が見られた。観察、操作や実験などの活動を通して平面図形や空間図形の理解を深め、図形の計量的能力を伸ばす活動を取り入れる。
	【3年】正答率は「数と式」「関数」「データの活用」では全国を上回っていたが、「図形」の領域に課題があった。図形の移動について考察する際に、図形がきまりにしたがって移動している様子を観察し、移動前と移動後の二つの図形の関係を捉え、図形の移動の性質を見いだす活動を取り入れたたり、コンピュータで図形が動く様子を観察したりすることなどを通して、図形の移動について理解できるように指導していく。
理科	【1年】正答率はすべての領域において全国を上回っていた。「月と太陽」の観点で、天体の動きの問題が全国を下回っていた。月と地球と太陽の位置関係による月の満ち欠けに苦手意識をもつ生徒が多いため、3年の学習時には小学校の内容を振り返りながら丁寧に指導する。
	【2年】「身近な物理現象」「身の回りの物質」「いろいろな生物とその共通点」の領域において正答率が全国を上回っていた。「大地の成り立ちと変化」の「火山活動と火成岩」「地震」の領域において課題が見られた。1年生の学習内容の復習や問題演習を行い、基礎的な知識を習得させ、理解を深める活動の場を多く設定していく。